

全学教育科目

個性差健康科学
1年次 必修

知的好奇心
大満足の授業です！

今回のレポーターは

薬学部薬学科2年 森 数馬 さん
神奈川県 鎌倉高校卒

三代目薬学部SCPとして活躍中。植物研究部所属。「ひどいアレルギーが、当別移住でよくなりました!」。

全学部で1年次、必ず受ける授業。 理事長や学長の講義もあります！

先生も取り上げるトピックスも
毎回違います。

「個性差健康科学」は、どの学部学科に入学しても1年次に必ず受ける全学教育科目の一つです。文系と理系が融合された、本学らしい授業と言えると思います。講義を行う先生は毎回違い、全学部、バラエティに富んだジャンルから集められています。

学外の方が見ると一見バラバラに見えるかもしれませんが、キーワードは「個人」「個性」というときに使う「個」です。他の学生同様に私も医療を志して入学したので「個」と聞いてます思い浮かべたのは「オーダーメイド医療」や「遺伝子」あたりだったんですが、この授業ではもっと広く、文学や環境などを通して「個」を考えることもできました。この授業がなければ在学中に接点をもてなかったであろう先生の話も聞けますし、理事長や学長の授業を受けられることも大きな魅力です。なかなか得がたい機会ですからね。

各研究分野のエッセンスが
ぎゅぎゅっと凝縮されています。

テストの点数を取るために取り組む科目とはひと味違う、自分から目が向かなかった分野の知識を得たり、何かを深く思考するきっかけをもらえる授業です。毎回1話完結、各先生の研究分野のエッセンスがぎゅっと詰まっている、おもしろいと取り、贅沢な授業と言えるかもしれません。

先生方は本当に個性豊かですが、講義内容への私たち学生の反応もそれぞれに違います。薬学部生ですら「DNA」「ES細胞」などの話に強く反応する人がもちろん多かったのですが、意外に、文学など文系とされる内容に新鮮さを感じて

2010年度「個性差健康科学」講義一覧

ガイダンス	・個という視点 ・私が存在することの奇跡 ・講義内容と目的の説明	大学教育開発センター准教授 花湖 馨也
個性差健康科学への誘い	・建学の理念 ・個性差健康科学とは ・文理統合の理念 ・共感による結びつき	理事長 廣重 力
個と社会① 私って誰？	・「私」の発見と「私」になること ・他己像と自己像との隔たり ・我とわれわれの関係	心理科学部教授 小野 滋男
個と社会② 「権利」をめぐる冒険	・「1984年」と村上春樹 ・「ぼくは勉強ができない」-社会と個人 ・「権利」の意味と意義	薬学部講師 森元 拓
個と社会③ 健康な個人が健康な社会を作る	・貧困と健康の公衆衛生学 ・個の確立と開発援助 ・個と社会 -まとめ	薬学部教授 半田 祐二郎
個の健康と環境① 心の健康とストレス	・現代社会と心の時代 ・心の仕組みとストレス ・ストレスを感じる人、感じない人	心理科学部教授 坂野 雄二
個の健康と環境② 環境と免疫応答	・花粉症は現代病？ ・免疫力を高めるには ・新興・再興感染症とは？	薬学部講師 大澤 宜明
個の健康と環境③ 生活環境とあごの健康	・顎関節症機能の進化と障害 ・環境や民族による差異 ・生活環境と健康の関わり ・個の健康と環境 -まとめ	薬学部教授 中山 英二
遺伝子と個性差医療① ヒトの個性差とゲノムの多様性	・遺伝子とゲノムとは ・ヒトの個性差とゲノム ・病気になるやすさへの影響	学長 新川 詔夫
遺伝子と個性差医療② 遺伝子は変えられないのか？	・設計図としてのDNAと進化 ・エピジェネティクスとは ・環境や行動がもたらす変化	個性差健康科学研究所准教授 太田 亨
遺伝子と個性差医療③ 遺伝子から見る個性差	・一塩基多型と生体反応 ・遺伝子と病気 ・薬物治療と遺伝子治療	薬学部講師 浜上 尚也
遺伝子と個性差医療④ オーダーメイド再生医療の近未来	・ES細胞は万能細胞か ・iPS細胞の誕生 ・自分の臓器は再生できるのか？ ・遺伝子と個性差医療 -まとめ	薬学部講師 荒川 俊哉
個とケアの倫理① 当事者と向き合う	・べてるの活動のはじまり ・当事者論の展開 ・個々の当事者どう向き合うか	看護福祉学部教授 向谷地 生良
個とケアの倫理② 最期の晩餐は？	・終末期医療とは ・がん患者が最後に選ぶこと ・個々の患者をどう看取るか	看護福祉学部教授 平 典子
個とケアの倫理③ 遺伝子時代の生命倫理	・先端医療とは ・多様な価値観と日本の生命倫理 ・本学が育む新医療人とは ・個とケアの倫理 -まとめ	名誉教授(前学長) 松田 一郎

引き込まれる学生もいるんです。

こうしてあらためて振り返ると、本当にどの回も興味深かったと思います。廣重理事長が熱く語った「患者さん一人ひとりをちゃんと見る医療人に!」というメッセージは医療の世界をはじめた私たち薬学部生の心に刻まれ、モチベーションが上がりました。出演したテレビ番組を見たこともあって楽しみにしていた新川学長の耳あか遺伝子の話も期待以上でした。

1年次で最も“優”を取るのが
困難と言われています。

80分授業のうち先生の講義は60分ほど、残りの時間でその日取り上げたテーマについての

まとめや自分の考え、感想などを書いて提出します。話した内容から出題される小テスト形式の回もありました。

その場で提出しなければならないので、時間内に考えを整理すること、端的にまとめる文章力が必要とされます。これが意外な難所でした。話題は最先端の科学だったり、人間の深い部分に触れる倫理だったりしますから、書きたいこともたくさん出てきますし。そのため学生の間では「最も“優”を取るのが難しい科目」と言われています。

私の成績ですか？それはみなさんのご想像にお任せしますね。一応言っておきますと、よく外見から勘違いされますが勉強はあまりできません(笑)

